
メール

ゆいか

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

メール

【Nコード】

N3868Z

【作者名】

ゆいか

【あらすじ】

プリクラに続いて短編を書いてみました。

ケータイのバイブの音とともに
君色のライトが私の期待をふくらます。
たいしたメールしないけど、
素っ気ないメールってわかってるけど、
君からメールが帰ってきた。
それだけで繋がってる幸せを感じる。
こんなこと君に言っても
「おおげさだよ。」
なんて冷静に返されちゃうよね？

『おはよう』

『おはよう。』

『今日も寒いねー！』

『そうかな。』

『今、英語の授業中なの
ぶん』

『お弁当食べてるよ』

『俺も。』

『先生に怒られちゃった』
『そっか』

『帰りのバスにのったよ』
『よかったね』

『今日の夜ごはんカレーだったよ』
『へえ〜。』

『お風呂入ってた!』
『俺も行ってくる。』

『ねえ?』

『何?』

『やっぱ何でもない。』

『そっか。』

『おやすみ。また明日』

返事が返って来ないと、不安になる。

私がおやすみって言ったのに、

私がまた明日っていったのに、

君が離れていってしまうような感じがして。

高校も頭の良さも身長も顔も、

君には不つりあいな私だから、

君が何考えてるのか、何を見てるのか。

私には何もわかんない。

それがたまらなく不安。

でもその不安を君はちゃんと裏切ってくれる。

もう一度君色のライトが光った。

『土曜日空けといて。おやすみ』

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3868z/>

メール

2011年12月13日02時09分発行